

生き物調査でカモ捕獲

柏崎周辺農業水利事業所

8月20日(土) 柏崎市女谷にて、柏崎市主催の田んぼの学校「生き物調査」が実施され、約30名が参加しました。また、事業所はこれまでに生き物調査の実績があったことから、事前準備も含めて協力し、当日は職員5名がスタッフとして参加しました。今回の田んぼの学校については、当初7月30日に開催予定でしたが、同時期に県内を襲った新潟福島豪雨の影響でこの日への延期となりました。

始めに、地元の方が管理されているため池にてタモ網を使った調査を行いました。参加者は、網を持って、ため池やその隣にある沢で生き物を捕まえていました。あまり大物は捕まえられませんでしたが、カエルや水生昆虫、イモリなどが見つかりました。また、地元の方が「サギが来るとカエルを食べてしまう。」と説明していましたが、開催時期が遅いこともあってか、捕まえられたカエルの数は少なかったようです。

次に、近くを流れる鶴川に移動し、川の中の生き物調査を行いました。

例年、調査の際はタモ網だけではなく、カゴ網や定置網を使った採捕も行っています。しかし、カゴ網は、過去の後谷ダムにおける調査ではエビや小魚が捕れたのですが、鶴川での調査ではほとんど生き物が獲れることはありません。今年は2カ所に設置してみましたが、結局、空振りに終わってしまいました。



ため池での生き物調査



鶴川の様子



確認された生き物（左：アブラハヤ、右：スナヤツメ）

一方で、期待が持てるのは定置網で、タモ網だけでは捕獲が難しい遊泳魚を捕まえやすいということから、毎年の調査で設置をしています。

今年も、前日から近くの排水路に仕掛けたままおきましたが、網の回収に向かったスタッフから、「カモがかかっている。」という、まさかの連絡がありました。「そんな馬鹿な。」と思って現場に行ってみると、本当にカモが、しかも4羽も入っていました。



定置網に入ってしまったカルガモたち



興味津々の参加者

とりあえず、網に入れたままの状態で会場まで持つて行くと、カモがかかっていふことを聞きつけ、子供たちがすぐに集まつてきました。生き物調査に協力していた専門家の方によれば、今年生まれたカルガモの若鳥ということでした。

子供たちは、「カモだ。」「かわいい。」とはしゃいでいましたが、周りの大人からは「今夜は鴨鍋か。」「マガモの方がうまい。」という声が聞こえており、どうも大人と子供ではカモの見方が違っていたようです…。

(なお、捕まえた生き物はカルガモも含めて、すべてその場で解放しました。)

採捕結果については、昨年よりも魚類の捕獲種が少なく、オイカワやウグイが確認出来ませんでした。たまたま捕まえられなかったのかもしれません、先日の豪雨の際に、魚が下流側に流されたことも考えられます。また、今回調査を行つた場所でも、川筋が変わり河床が洗掘されているなど、生息環境が変化してしまつたことも影響しているかもしれません。しばらくして、環境が元に戻れば魚も戻つてくるのではないでしようか。

調査で確認された生き物

地点A(ため池)	地点B(鶴川)	地点C(排水路)
タモ網	かご網	タモ網
ドジョウ	採補無し	アブラハヤ
トノサマガエル		カジカ
ツチガエル		ヤツメウナギ
イモリ		ヤゴ(イトンボ類)
マツモムシ		カワニナ
サワガニ		タニシ
ヤゴ(ヤンマ類)		
ヘビトンボ		
ミズスマシ		
カワニナ		
タニシ		